

杉並景観録
第二十五号



屋敷林と農地

杉並の原風景

杉並区はかつて野菜や穀物などを生産する農村地帯でした。当時は畑や雑木林、川沿いには水田が広がっていました。また、農家の家の周りには屋敷林が植えられ、冬の季節風から家や畑を守るほか、生活するうえで様々な用途をもつものでした。

屋敷林を構成する代表的な樹種はケヤキやカシ、スギやタケなどです。枯れ枝や剪定した枝は燃料に、ケヤキの落ち葉は腐葉土にして畑にすき込み、スギは材木として、タケは籠をつくるのに利用するなど無駄なく使われていました。

このように屋敷林と農地は密接に関係するもので、屋敷林と農地のある風景は杉並の原風景と言えるものです。



▲昭和35年浜田山1丁目での田植え風景



杉並区の農業

区内の農家戸数は135戸、農地面積は41.99ha(ともに平成31年4月現在)で東京23区では5番目の広さです。約7割の農地で野菜が作られ、多くの種類を少量ずつ生産している農家が多いです。生産物の大部分が直販されていて消費者のニーズに合わせて品目を増やしたり、施設栽培のフルットマトのように特徴ある品目に絞り込み高付加価値化を図ったりする農家もいます。

産出額の多い野菜はトマトで、多くはハウスを利用して栽培されています。また、ナスやコマツナ、エダマメ、キュウリなども産出額が多いです。栽培面積ではダイコンが最も多く作られています。野菜のほかにはクリやカキ、ウメなどの果樹や花木、植木なども生産されています。



成田西ふれあい農業公園



場所▶成田西 3-18-9
開園時間▶9時~17時(年末年始を除く)

区民が農に親しむ場として、気軽に土とふれあい、農を「みる」「ふれる」「楽しむ」ことができる公園です。
四季折々の旬の野菜を収穫体験したり、農や食に関するイベントを通して、都市における農の魅力や農地の大切さを発信しています。

